

# 薩摩川内市久見崎地域で採集された魚類化石

多久島 徹

## The Fish Fossil Which Was Collected in Gumizaki Area, Satsumasendai City

Toru TAKUSHIMA

### はじめに

今年度、薩摩川内市久見崎周辺の凝灰岩質堆積層で採集された魚類化石及び植物の標本を寄贈していただいた。これらの標本は、中村昊志さん（薩摩川内市立育英小学校1年）が夏休みの自由研究として採集したものである。道路脇の露頭が崩れ、転石となった岩石を丁寧に割りながら化石を見つけ出した。

これらのうち、特に魚類化石は状態が非常に良く、今後詳細な研究を進めたいと考えている。

今回は、寄贈された化石及び採集地周辺の地質を紹介する。

### 1 採集場所周辺の地質概要

採集地は薩摩川内市の川内川河口付近の左岸側（図1）で、周辺の地域内で最も古い岩石は、久見崎町などの川内川河口周辺に分布する四万十層群で、粘板岩層と砂岩層との互層からなり、この地質時代は中生代白亜紀といわれている。この上に不整合に各種の火山岩が載っており、下位から寄田輝石安山岩・天狗鼻および鴨ノ瀬角閃石安山岩・串木野輝石安山岩・川内輝石安山岩・小麦川角閃石安山岩

の順で重なり、その後に川内玄武岩が流出している（太田，1971）。

また、北薩地域には新第三系と考えられる湖成層が点在しており、植物や淡水魚類等の化石が見つかっている。明確ではないが、採集地の地層もそれらの湖成層に相当する新第三系と第四系に挟まれた地層と考えられる。

採集場所周辺の寄田地域は植物化石の産地としてよく知られている（高木，1986）。

### 2 魚類化石の標本について

標本は、崖が崩れた場所で、転石として岩石中に含まれていたものである。岩石は凝灰質泥岩で、ラミナが認められる。

標本のサイズは約6cm（図2）で、非常に状態がよく、頭部（図3）、背鰭（図4）、尾鰭（図5）腹鰭及び臀鰭等が鮮明である。

種名は現在不明であるが、採集地の地層や化石の体のつくりから、淡水性の魚類でオイカワやカワムツなどのコイ科と考えられるが、詳細な調査が必要である。

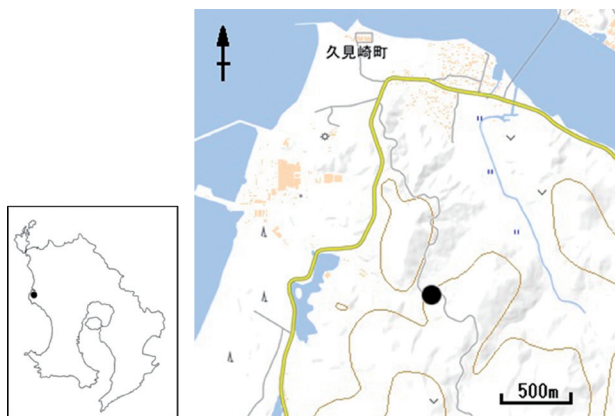


図1 採集地（国土地理院地図に加筆）



図2 魚類標本



図3 魚類標本の頭部



図4 魚類標本の背鰭



図5 魚類標本の尾鰭

### 3 まとめ

魚類化石の標本については、今後、正確な同定を行い、本地域に分布する堆積岩層の堆積当時の環境を考察する手がかりとしたい。

また、現在、本地域に点在している湖成層の露頭の分布調査及び化石採集を進めている。本地域周辺は化石が産出することは知られていたが、それらに関する報告は少ないため、化石目録としてまとめたいと考えている。

### 謝辞

中村昊志さん、保護者の中村憲志氏には、貴重な標本を寄贈していただいたこと、厚く感謝申し上げます。

### 引用・参考文献

太田良平(1971)羽島地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅). 地質調査所.

太田良平(1971)川内地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅). 地質調査所.

神戸信和・大沢穠(1963)西方(5万分の1地質図幅説明書). 地質調査所.

内村公大・大木公彦・古澤明(2007)鹿児島県八重山地域の地質と鮮新統郡山層の層位学的研究. 地質学雑誌, 113(3):95-112.

高木繁(1986)鹿児島県産葉化石について. 鹿児島県立博物館研究報告, 5:23-40.